

OPINION

中部経済新聞

本年、米国との貿易関係で何らかの影響を受けなかった国は世界中に一つもないはずだ。トランプ政権が1月に権力を掌握した後、数週間にわたる関税に関するおどしあるいは「脅迫」のツイートが続きました。4月2日

ナヒゲーター

には、大統領自身が「解放の日」と宣言し、185カ国以上に対する「相互主義」に基づく関税措置を施行しました。

わが国カナダと米国との2国間自由貿易協定は1989年から発効しており、94年

期待の日本へ 世界各地から

其 137

2025年、米国ビジネスの展開と行方

にはメキシコを含む北米自由貿易協定(NAFTA)に拡大されました。その後2020年には米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)として更新、発効しました。これは米国・メキシコおよびカナダの自由貿易協定であり、18年11月に米国・トランプ大統領、メキシコ・ニエト大統領、カナダ・トルドー首相によって署名されたものです。

4月2日に宣言された解放日は、米国にとって偉大な日

カナダから(上)

であっても、カナダにとって心地よい重要な日ではありません。実際、カナダは3月からアルミニウムと鉄鋼製品に関税が課せられています。

この米国との関係の変化は、カナダ企業にとって完全に衝撃でした。過去35年以上にわたり、カナダ企業はまるで国境が存在しないかのよう

に事業を展開してきました。例えば自動車産業は、1996

結し、60年以上恩恵を受けてきました。その結果、自動車産業関連のサプライチェーンは、両国が競争優位性を最大限に発揮できるように構築されており、一部の部品は米

最大7回も越えて、最終的に自動車の組み立てに使用される完成部品となるまで移動を繰り返しています。

関税が発表されると、関税によってもたらされる潜在的な影響とコスト増加は、誰もが容易に想像できます。4月

には、GM、フォード、ステランティス(旧クライスラー)のCEOたちは、米国で組み立てられる1台当たり約5千ドルの関税が課せられると推測しました。輸入車両に対する平均関税は約8600米ドル

良いニュースは、トランプ政権がこれらの不満を聞き入れ、USMCAの対象となるすべての製品は関税なしで米

国に輸入できると宣言したことです。とはいえ、アルミニウムと鉄鋼製品は除外され

ました。同時に、カナダは米国と新たな貿易協定の交渉を進めており、期限は7月末となっていました。

USMCAと新たな交渉によって、カナダは安心してよかつたのでしょうか。全くそうでなかったのが現実だ、ということを経界中の人々が知ったのは7月中旬でした。カナダ国民が関税に関して安心できないと知ったのは、トランプ米大統領が7月中旬に関税を見直し、新たな関税を発表し、関税引き上げを宣言したからです。

【グレン・ヨネミツ、リーム中産連】

(月曜日に掲載)